

団体名

(公財)香川県国際交流協会

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 1,149 千円

災害対策

事業名

外国人住民災害時支援事業

事業の概要

事業のポイント

◇外国人住民を災害弱者にしないために、市町での災害時の外国人対応状況を把握するとともに、発災時に備えて、大規模災害発生初期から長期化した頃までの避難所生活を想定し、外国人住民向けの実践的な訓練を行った。(当訓練は、通訳などのボランティアの研修も兼ねる。)

◇訓練の主な内容は以下の通り。
 ・災害を知る
 ・避難所を体験する
 ・災害情報にふれる
 ・防災に関する日本語を学ぶ
 ・多言語支援センターの開設訓練を行う

事業の背景・目的

◇日本各地で地震等の災害が増加する中、地域社会の一員である外国人住民の防災対策を考える必要性が高まっている。

◇訓練への参加を希望した外国人住民の多くが、日本語力が十分ではなく、防災訓練に参加した経験がないことが予想された。そのため、以下のことを目的に訓練を実施した。
 ○実際に災害が発生した際に正しい行動がとれるようになること
 ○災害時に外国人に起こりうる問題を認識し、日頃から日本人との関係を築いておくこと
 ○香川県の一住民として支援する側になること など

(1) 正確な防災情報の迅速かつ的確な提供

災害時支援に関する市町国際交流担当者及び地域防災担当者と意見交換

【期間】平成 25 年 9 月 24 日(月)～11 月 14 日(火)

【対象】県内 8 市 6 町 国際交流担当課・地域防災担当課

【参加者数】38 名

【内容】市町地域防災計画における外国人住民の対応及び所在把握に関する聞取

(2) 実践的な防災教室・防災訓練の実施

① 避難所訓練

【対象】外国人住民及び通訳ボランティア

【日時】平成 25 年 12 月 15 日(日) 10:00～16:00

【参加者数】13 カ国 66 名(内、外国人数 62 名)

(Ⅰ)香川の災害を知ろう！

(Ⅱ)避難所を体験しよう！

物資の分配、ダンボールのパーテーション設置及びトイレ作り等

(Ⅲ)災害時における外国人住民の現状について

② 多言語支援センター開設訓練

【対象】外国人住民及び通訳ボランティア

【日時】平成 26 年 1 月 19 日(日) 10:00～16:00

【参加者数】12 カ国 74 名(内、外国人数 57 名)

【内容】

(Ⅰ) 災害時多言語支援センターの果たす役割について知る。

(Ⅱ) 災害情報にふれてみよう！

○災害時のニュースがわかる！？まる覚え防災の日本語

緊急地震速報から重要な情報を読み取り避難などの正しい行動につなげられるよう、必要な漢字の言葉を学ぶ。

○災害情報がわかる！？見て聞いて安心の災害情報

災害対策本部から発信される情報をわかりやすい文に置き換える。

(Ⅲ) 食食(災害時の炊き出しをイメージしてのうどんの提供)

※防災に関するアンケート調査実施

(Ⅳ) 災害時多言語支援センター開設訓練

【内容】多言語支援と被災者のチームに分かれ、多言語による情報提供や要望の聞き取り調査などを行う。

○多言語支援チーム：グループでの活動(役割分担、情報の選定、翻訳等の準備)、巡回、ニーズ聞き取り、情報共有

○被災者チーム：状況説明及び被災者設定シート配付、巡回に対応

(Ⅴ) 振り返り

(3) 平常時からの防災体制の構築

外国人住民の避難場所としての会館内設備・備品に関する検討



緊急地震速報を聞いて机の下に隠れる



ダンボールを使ってトイレを作る

事業実施における工夫点・事業の成果等

(1) 正確な防災情報の迅速かつ的確な提供

○県内 17 市町のうち、14 市町の国際交流担当課及び地域防災担当課を訪問することで、両課の担当者が共通認識を持ち、今後の支援方を検討する場を提供できた。後に複数の市町で、今後の取り組みについて協議を始める機運ができた。

○訓練実施時に、防災に関する外国人住民の意識調査を行ったことで、行動や考え方の傾向を把握することができた。

(2) 実践的な防災教室・防災訓練の実施

①各回 50 名の定員を大幅に超える合計 140 名（うち外国人数 119 名）の参加があった。

[要因]○県内の技能実習生受入組合や企業、留学生在籍校、日本語教室や国際交流協会等へ積極的に広報し、協力を得た。

○訓練内容が分かりやすいちらしの作成（イラストを多用し、多言語化したもの）

○会場までの巡回バス（県内 東西 2 ルート）運行による参加者の送迎

②日本語が十分ではない外国人住民にも内容が理解できる訓練となった。

[要因]○グループ活動において英語や中国語、やさしい日本語等でのサポート役を配置するなど言語面での配慮をした。

○訓練全体を通し、やさしい日本語を用いた。（司会、講演、体験、配布資料、アンケート、ちらしなど）

③参加者にとって実用的で役立つ訓練となった。

[要因]○より現実に近い避難所の体験（非常食の準備、ものづくり、グループでの活動など）を行った。

○香川県で起こりうる災害や避難所の場所を知り、災害時の身の守り方を学んだ。

○災害が起こったときのために準備しておくべき事項や物資について学んだ。

○（防災の日本語）災害時に緊急地震速報等の内容を理解して避難できるよう、それに必要な漢字の言葉を学習した。

④参加者同士が楽しみながら交流を深めることができ、平時からの「顔が見える関係づくり」の場となった。

[要因]○訓練には体験や講演だけではなくものづくりやゲームを盛り込むなど、構成に工夫を凝らした

⑤関係団体との連携により、効果的な訓練を実施でき、「外国人住民災害時支援事業」の基礎となる防災の仕組みづくりを推進するうえで大きな成果となった。また、外国人住民の社会参加につながる可能性を見出すことができた。

[要因]○訓練の企画段階から、（特活）多文化共生マネージャー全国協議会、（特活）日本防災士会香川県防災士会、県・市町地域防災担当課や国際交流協会、県国際課等から、研修内容について助言や備品貸与等での協力連携を得ることができた。

⑥香川国際交流会館を、日本人と外国人をつなぐ国際交流の場として、また、災害時の多言語情報発信機能、外国人避難所機能を兼ね備えた施設として、活用を図ることができた。



災害時のニュースの漢字を読む

今後の課題・将来に向けての展望等

○外国人住民を含めた地域での防災活動につながるよう、市町や市町国際交流協会と共催での訓練・研修会を実施していく。

○防災の日本語を学習するプログラムは、外国人住民からの反応もよく、実用的であると好評だった。既にプログラムの使用申請があり、他市町国際交流協会主催の防災訓練や、外国人児童が多い小学校の授業において、このプログラムを用いた講座が実施されている。今後、さらに内容の改良を進め、市町国際協会や日本語教室、企業等での実施につなげたい。

○今後も継続的に防災訓練を実施していきたい。

○平成 26 年度の事業計画として、香川県国際課と連携し、行政・団体職員を対象とした災害時における外国人支援対策研修（9 月実施）や、香川県、丸亀市、丸亀市国際交流協会との連携のもと、丸亀市近辺在住の外国人住民や支援ボランティアを対象とした防災訓練・多言語支援センター開設訓練及び防災の日本語講座（10 月実施）を予定している。



多言語支援チームの準備の様子

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 外国人参加者からは、「実用的で役立つ知識が得られた」や「不安が解消された」、「災害が起きたときどうするか家族と話し合っておきたい」など、今後の行動につながる意見も聞かれ、研修の効果を実感できた。また、支援ボランティアからは「情報伝達の難しさを知った」という感想があった。双方から「楽しかった」「また参加したい」という声が多く聞かれ、訓練が国籍や年齢を超えた交流の場ともなったと考えられる。
- ⇒ いざというときに備え、継続して事業を実施していくことで、外国人住民のための防災の意識を高めていく必要性があると感じた。